


教区通信 ふくおか


2021(令和3)年3月1日発行
Vol.133
 発行
 「御同朋の社会をめざす運動」
 福岡教区委員会



「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) スローガン
結ぶ絆から、広がるご縁へ
 -From tying bonds to great encounters-



報恩講の様はこの度開設しました
YouTube “浄土真宗本願寺派福岡教区
 本願寺福岡教堂” チャンネルより
 ご覧いただけます。
 右のQRコードからもご覧いただけます。



▲親鸞聖人報恩講法要(1月26日~28日 本年は参拝席を設けず、ライブ配信いたしました)

本願寺福岡教堂・福岡教区 親鸞聖人報恩講法要 …… P4

ご挨拶 ~新年度に向けて~……………P2
 宗会議員総選挙報告……………P2
 宗会に臨むにあたり……………P2~P3
 帰敬式について……………P4
 新型コロナウイルスと閉塞する社会…P5
 本願寺福岡教堂「親鸞聖人鑽仰講座」のご案内…P5

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) 中央委員会について…P6
 「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」について…P6
 社会福祉推進協議会福岡支部について…P7
 法話「小さな慈悲」……………P7
 行事予定・編集後記……………P8

ご挨拶

新年度に向けて

福岡教区教務所長・本願寺福岡教堂主管 野村 宗雄



礼申しあげます。

コロナ禍により一年前には予想できないほど世界が一変し、各寺院では、従前のような運営、活動ができず種々ご苦心ご苦勞のことと存じます。その最中に「令和二年七月豪雨」も発生しました。感染症により亡くなられた方々、豪雨の犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表し、また罹患された皆さま、豪雨に被災された皆さまに衷心よりお見舞い申し上げます。

自然災害、感染症ともいつ誰かが被災、感染するかもしれず、他人事ではありませんが、「他人事ではない」には、自分もいつ禍に遭うかもしれないという意味とそこにとどまらず他人事とは思えないから何とかしたい、寄り添うという心を表す使い方があります。

今年度は東日本大震災から十年の節目になります。当時未曾有の災害経験の中

平素より教区の運営・活動、また教堂の護持にご理解ご協力いただき、ありがとうございます。

「絆」(ここで束縛など否定的意味は触れません)が注目され、その共生感が寄り添う支援の力となりました。その「絆」には、他人事とは思えない、寄り添う心があると言えましょう。

さて、現在のコロナ禍では、感染拡大防止や感染者への配慮、また医療従事者などへの感謝の声がある一方で、偏見や差別による分断的、排他的思考や行動が見られます。そこには、他人事とは思えない寄り添う心は希薄に思われます。そうなる理由として、自粛によりつながりが制限、分断されていること、そして何より目に見えないウイルスを相手にし、誰もが感染と隣り合わせで、そこから不安や恐怖が生じ疑心暗鬼、閉塞感に陥ることが考えられます。他人事ではないことが、当に身に迫ると私たち人は弱く、愚かな本性が出るものです。

この度は厳しいご縁ですが、それだけに他人事ではない、つながりといった大事なことをあらためて振り返り、向き合い、深める機縁でもあると思えます。

新年度に向けては、コロナの状況を見つつ、今年度の遅滞回復に努め、その中で情報共有に遺漏のないようにしてまいります。皆さまにはご協力をお願いいたします。

宗会議員総選挙報告

二〇二〇(令和二)年十二月、宗会議員の任期満了により宗会議員総選挙が実施されました。福岡選挙区(福岡教区)の結果は次の通りです。(届出順・敬称略) 門徒宗会議員(定数1) 当選 鳥飼睦夫(早良組明光寺門徒) 二〇二〇(令和二)年十二月十四日 選挙会

僧侶宗会議員(定数2)

当選 下川弘暎(下川東組浄弘寺住職) 当選 三好慶祐(夜須組眞淨寺住職)

二〇二〇(令和二)年十二月十一日 選挙会 この度の立候補者は定数と同数のため無投票となり、当選者には選挙会にて当選状を交付しました。次頁にかけて当選人の所信表明を掲載いたします。

宗会に臨むにあたり

早良組 明光寺 鳥飼 睦夫(三期目)



宗会議員の任期満了により、十二月十日の選挙会にて、無投票で選んでいただきました。結果、全国の門徒宗会議員三十一名は、四期以上四名、三期六人、二期十人、一期十一人となりました。

宗会には様々な役目があり、私は今回常務委員に任命されました。門徒議員は一名で、三期目の議員では初の役目、緊張しております。早速二月に召集されましたが、下川議員も委員なので、指導をいただきながら頑張りたいと思います。

この役目とは別に、気になっていることがあります。私は本山本願寺の門徒だと思っておりますが、本山への門徒会費を納めておりません。個人ではありませんが組には組費、教区には教区費、所属寺院には門徒会費を納めています。宗派には寺院が護持口数等によって算出される賦課金が納められています。本山に直接納めているのは、私の身近では組で実施している講社で納めている講金だけと聞いています。一般寺院に収める門徒会費はどこに入金されたものなのか悩んでいます。お知恵お貸しただけでいいでしょうか。お知恵お貸しただけでいいでしょうか。お待ちいたします。

宗会に臨むにあたり

下川東組 浄弘寺住職 下川 弘暎 (七期目)



立教開宗の意義は、聖道諸宗による念仏停止の訴えが繰り返され、やがて法然門下が弾圧される嘉禄の法難へと続いた苦難の中、真宗の教・行・証を明らかにされ、信心正因・称名報恩の念仏こそ大乘仏教の真髄、在家・出家を問わず等しく救われる道であることを明らかにされたことにあります。

翻って現宗門の歩みは、親鸞聖人七〇〇回大遠忌法要の折、勝如御門主(当時)の「名ばかりの門徒、形ばかりの僧侶」のご指摘に触発され、門信徒会運動・同朋運動から御同朋の社会をめざす運動(実践運動)へと一連の運動を続けてきました。

今その運動を振り返ると、宗門の根幹とも言うべき「信心決定」が中心課題ではない運動になっていったように思います。蓮如上人の

「自信教人信」と候ふときは、まずわが信心決定して、人にも教えて佛恩になることにて候ふ。自身の安心決定して教ふるは、すなはち「大悲伝普化」の道理なるよしおなじくおせられ候ふ

『蓮如上人御一代記聞書』第九三条
 というお言葉こそ深く肝に銘じ、宗門の運動は展開されなければならないと思います。悲しいかな、宗門の現況は勝如御門主のご指摘から一步も進展していませんように思います。

来る親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要は、宗門成立の原点に立ち返り、真宗念仏の本義を世に顕わす、新たなスタートです。
 宗門の将来を思い、もうしばらく宗会場で発言させていただきまます。

宗会に臨むにあたり

夜須組 眞浄寺住職 三好 慶祐 (三期目)



鴨長明が著した『方丈記』には、親鸞聖人が生きられた平安時代末期の混乱した社会の様子がつぶさに記されています。そこには、頻発する自然災害や疫病の蔓延、争いによる対立は社会を分断し、貧富の差によつて飢えに苦しむ人々のすがたなども描かれています。それは、私たちが生きる今の社会状況に酷似しているとも言われます。親鸞聖人の専修念仏の教えは、このような時代背景の中で顕されました。

お釈迦さまが人間の根本苦を「生老病死」と明らかにされたように、仏教は人間の「解消されない不安」を課題とするものです。自然災害や新型コロナウイルスの問題などは、そのことに直接的に関わることだけが仏教の役割ではなく、むしろこれらの事象によつて、社会に潜在

する格差や貧困、差別・冷戦という、日ごろ私たちの目には見えていなかった大きな問題が明らかになり、そのことを課題化していく事が仏教の本来の役割だと教えられます。そしてその潜在する問題は、合理化や効率化の美名のもとに進められてきた利益優先の価値観が生み出し、ネット社会やSNSの発達の中で「対話」が軽んじられ「分断」が深まった事にも起因しているのではないのでしょうか。

いよいよ私たちの宗門は、宗祖御誕生から八五〇年、『教行信証』の撰述(立教開宗)から八〇〇年の節目を迎えようとしています。この度の宗会議員選挙によつて選出させていただきます私(たち)にとりましては、あらためてこの度の法要の意味を明らかにし、法要の円成を担うべき責任が与えられていると痛感しています。

現在、宗門の未来を憂慮し整理すべき声が各方面から聞こえて来る中で、単にムダを省くという視点からではなく、合理化や効率化では計ることができない課題に向き合うという仏教教団としての使命感に立って、将来的に人々の苦悩に 대응する宗門を構築することを目指していきます。

本願寺福岡教堂・福岡教区 親鸞聖人報恩講法要

本願寺派布教使・大阪教区交野組浄行寺 義本 弘導

報恩講とは、親鸞聖人のご命日を御縁にしてお勤めする法要です。例年、教堂まで皆さんがお参りくださるのでしようが、今年は、昨年初めから話題になってきたコロナ禍のために、今までに経験したことがない形の法要になりました。感染防止のために色々と検討されたのでしようが、結局皆さんには参拝をご遠慮いただき、私もそちらに寄せていた、なかなか、自坊からインターネットを使って、御法話をさせていただくことになりました。

さて、御法話のほうは、親鸞聖人の御往生までの一週間の様子を受けてさせていただきまし。現在の報恩講は御往生までの一週間、勤められています。これは、浄土真宗の法要は月忌参りから葬儀まで、全ての法要が亡くなってからのお勤めではないということを示してくださっています。葬儀は亡くなってから勤めますから、亡くなった人のためのように思われますが、その方が私のためにお経を聞かせていただく縁を作ってくださいだったので。



それでは、その一週間、親鸞聖人は、「口に世事をまじへず、ただ仏恩のふかきことをのぶ。声に余言をあらはさず、もっぱら称名たゆることなし」というご様子だったようです。私たちは生きていく時に何か頼るもの、当てるもの、求めていきます。それが地位、名誉、財産、健康、家族、仕事、趣味などでしょう。それらが私に生まれてきて生きていく意味だと思いい、人生を支えてくれるものと思っっています。歳を重ねていくとそれが一つひとつ私から離れていき、支えになつてはくれません。しかしそれらを求めるために時には人に言えないようなこともしてしまうかもしれません。そういう生き様を煩惱具足の凡夫と言われました。また、世事ということも同じ事を表す言葉と言えるでしょう。聖人は、それらを頼りにせず、仏さまを頼りにすることを仏恩のふかきこととおっしゃったのです。聖人の生涯は、常に阿弥陀さまを抛り廻とされ、阿弥陀さまがいつでも私にはたらきかけてくださっている、称名たゆることなしと、お念仏する日々を過ごされ、その人生が、本当に幸せであつたと、語ってくださいだったので。

この報恩講の間に、私自身の人生を振り返り、またこの先の人生を見つめ、親鸞聖人が教えてくださったお念仏する人生を過ごさせてもらいますとお勤めする法要を報恩講というのです。

帰敬式について

あなたはかけがえのない仏の子

怡土組 玉栄寺 中島 至

私は法名を釋至心と申します。至心、至心さんと親しみをこめて名前を呼ばれると何だかうれしい気持ちになります。名前とはあなたがかけがえのない存在であることをあらわし、「しあわせになつてほしい」という親の願いが込められています。

さて、生きている時は俗名、死んでからは法名と考えられがちですが、そうではありません。法名とは阿弥陀さまを親さまといたたく身になつたかけがえのない仏の子の名であり、すべてのいのちを救い幸せにするという阿弥陀さまの願いが込められています。お聴聞をして阿弥陀さまのみ教えをよるこんでいく浄土真宗では、法名は生きている時にこそいただいてほしい名前です。

「阿弥陀さまの願いになう生き方をしたい」と誓う大切な儀式を帰敬式といひます。受式者は阿弥陀さまと親鸞さまの御前でおかみそりをし、「釋○○」という三文字の法名を授かります。

「釋(しゃく)」とは、仏教をお説きくださったお釈迦さまの「釈(釋)」の一字です。ただ、浄土真宗では俗世間の生活を捨てて出家し、仏門に入るといふ形はとりません。日常生活の中で阿弥陀さまのみ教えを聞き、お念仏を称えるこ

とを大切にしています。法名を授かり、み教えを聞く中で私の生き方をふりかえり、時には間違いに気づかされ、時には励まされながら、阿弥陀さまのお慈悲のなかでこのいのちを精一杯生きていくことができるのです。

法名をお持ちの皆さまも、これから授かる皆さまも、いただいた法名を日頃から名告つてみませんか。仏の子としての自覚が深まり、仏縁がもつとひろがっていくと思ひます。

阿弥陀さまが「あなたにかけがえのない仏の子なんだよ」とよび続けてくださっています。一生に一度の慶びと感謝の儀式である帰敬式を受け、ご一緒にみ教えをよるこぶ人生をおくりましょう。

二〇二〇(令和二)年度は中止となりましたが、例年福岡教堂では報恩講法要に際して帰敬式を執行しております。二〇二一(令和三)年度以降につきましては決定次第募集のご案内をいたします。

また、京都の本山本願寺では一部を除き毎日二回帰敬式を執行しています。詳細につきましては本山参拝教化部(電話〇七五―三七―一五八―一)にお尋ねください。

新型コロナウイルスと閉塞する社会

NPO法人ちくほう共学舎「虫の家」事務局長 高石 伸人

早いもので国内における新型コロナウイルスの感染が報じられて一年になりました。改めて他者を遠ざけることで身を守る「新しい日常」からどんな未来が描けるのか、自分が生き延びること以外に関心を持たない社会になっていいのかというアガパンの提起は、私たちの今を考える上で重要な意味を持っています。

感染症はコレラやペスト、ハンセン病の歴史が教えているように、人類にとっては手強い相手であり、感染者はしばしば差別や偏見に晒されてきました。今回の新型コロナウイルス禍でも「ウイルスよりも人間のほうが怖い」という声があちこちから届きました。

近隣の市でも、最初に新型コロナウイルスに罹患した方の家に投石や落書きなどのパッシングが続ぎ、引越しをされたという話を聞きました。また、医療・介護従事者や家族が嫌がらせを受けたり、営業を続ける店舗への非難の張り紙や県外ナンバーの車に傷をつけたりといった事案が報道されました。

支えるべき病気の人が「うつる病」と分かれると「加害者」のように扱う私たちの歪んだ感覚。これまでのハンセン病や水俣病の経験から何を学んできたのでしょうか。

また、社会の分断という意味では、三月の「一斉休校」によって、経済基盤が

弱い、リスクの高い家庭が追い詰められました。給食だけでなく、頼りにしていた「子ども食堂」の休止や閉鎖によって日々の糧ともに行き場を失った子どもたちもいたようです。さらに、安倍前首相の動画が物議をかもした「ステイホーム」の呼びかけは、ホームのない人、ネットカフェの休業で住む場所を失った人、失いかけている人々が急増しているという実態を無視しているように映りました。

同じく、家に居ながら仕事ができるという「テレワーク」についても、それが可能で教育や収入も高い知的労働を担う層と、困難な現業労働者等との格差の拡大も可視化されました。それは「オンライン教育」においても同様で、公立か私立か、地域や家庭環境によって違いは大きく、将来の教育格差にまで影響が及ぶという指摘もありました。

そして、私が一番気になったのは、医療現場における問題です。一時の医療逼迫の状況下で、数に限りのある人工呼吸器やECMO（体外式膜型人工肺）の配分をどうするか議論が浮上しました。新聞でも、「命の線引き」という見出しで、イタリアで「回復しやすい患者優先」、スペインでは「高齢者を見捨てた施設」などの記事が掲載されました。もっともこの「トリアージ」（治療の優先順位）というテーマは、コロナ禍以前の「平時」

の問題として潜在していました。相模原障害者施設殺傷事件の死刑囚、植松聖青年が問いかけた「障害者はいないほうがいい」という考え方にも繋がります。既に、生殖医療の現場では「クラス分け」と称して、ある種の染色体変異を持つ子どもには、特別な医療的措置は行わないというルールができていくそうです。つまり、「誰を死なせて、誰を生かすべきか、私たちは決めなければならない」ということです。

今や、いつ、どこで何が起きるか分からない時代を私たちは生きています。「文明は感染症のゆりかご」という言葉がありますが、人間による地球環境、生態系の破壊によって、新型コロナウイルスの拡大や気候変動といった世界的危機の事態に立ち至っているという認識が語られているのです。こうした新型コロナウイルス閉塞した状況でこそ、私という存在は多くの人たち、生き物の命の「つながり」の中で生かされているということ。だからこそ、このかけがえのない「いのち」を大切に生きていかなければならないということに気づかされます。そして、病气や障害で苦しむ人を支え、誰からも話しかけられない人の傍らに身を置く、そんな文字通り「人間」としてのつながりを手放してはいけない、と自分に言い聞かせています。

※一月八日に時局問題対策協議会が高石伸人さんをお招きしての公開講座を予定していましたが、大雪により延期となっています。延期日については決定次第各寺院やホームページ等でご案内いたします。

本願寺福岡教堂 「親鸞聖人鑽仰講座」のご案内

本願寺福岡教堂では1月と8月を除く毎月14日、15日の午後1時30分より親鸞聖人鑽仰講座を執り行っています。2021(令和3)年度の講師については次の通りです。

4月	嶋津 教信 師 (豊前市 円光寺)	10月	築場 飛鳥 師 (早良区 教徳寺)
5月	川崎 潔 師 (糸島市 長楽寺)	11月	實松 弘美 師 (早良区 照安寺)
	中島 法昭 師 (志免町 藤園寺)		今泉 真也 師 (博多区 善教寺)
6月	熊鱈 信行 師 (岡垣町 西圓寺)	12月	能勢 晃隆 師 (朝倉市 専光寺)
	田中 昭文 師 (直方市 願照寺)		立花 慈友 師 (宮若市 法蓮寺)
7月	岡 祐大 師 (田川市 無量寺)	2月	中山 信之 師 (飯塚市 光妙寺)
9月	佐々木朋信 師 (中央区 法泉寺)	3月	谷 一宗 師 (門司区 仏願寺)
	西村 達也 師 (八幡西区 西法寺)		藤崎 証 師 (若松区 顕照寺)
			井上 淨英 師 (那珂川市 真教寺)

※新型コロナウイルス感染状況によっては中止を含め内容を変更する場合がございます。予めご了承ください。

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) 中央委員会について

中央委員 西嘉穂組 西蓮寺 渡邊 慈海

二〇二〇(令和二)年度実践運動中央委員会は新型コロナウイルス感染症の影響で例年通りの開催(七月と十二月にそれぞれ二日間の日程)ができず、十月と二月にそれぞれ一日のみのリモート開催となりました。

各回とも、コロナ禍での宗門の取り組みと重点プロジェクト(貧困の克服に向けて「Data for World Peace」)「子どもたちを育むために」の一環として行っている「子どもたちの笑顔のために募金」の募金額や支援先等の状況の報告がありました。一般寺院から本山まで各寺院の活動に大きな制限があるなかで、募金総額としては昨年度(第一期)を上回る額が寄せられたことは、宗門の取り組みが浸透していると言えるでしょう。

一方で、研修を通して学びが深まった結果、単に支援活動を行うだけでなく、貧困を生み出す原因にも目を向け、社会構造や政治にも訴えかけていく必要があることも指摘されています。特にコロナ禍の影響で女性の自死増加や、アルバイト・派遣労働者など立場の弱い働き手が

失職して貧困化するなど、新たな問題が生まれている状況にも目を向けていく必要があるでしょう。

また、重点プロジェクトリーダーの位置付けについてや、実践運動そのものの教学的根拠といった組織面・理論面での議論もまだまだ必要であろうと思われます。

全体を通して、例年よりも限られた時間の中での中央委員会であったため、運動そのものの点検までは十分に議論できない一年でした。感染症対策のため、ほとんどの行事や研修・集会が例年通り行えませんでした。これまで取り組んできた運動とそこから明らかになった課題は今も解決されずに続いており、これらが忘れられることや滞ることがないように注意したいと思います。そのうえで、さらにコロナ禍によって厳しい状況が寺院内外に広がっていることを重く受け止め、お念仏の教えに生きるものとして、ともに考え、取り組んでいかなければならないと痛感する一年でした。

「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」について

来る2023(令和5)年に宗祖親鸞聖人のご誕生850年を、その翌年には立教開宗800年をお迎えすることになります。宗門では2023(令和5)年に「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」をお勤めいたします。

この度の慶讃法要は親鸞聖人のお誕生をお祝いすると同時に、浄土真宗の教えをお説きくださったことに感謝する法要です。宗門では法要のスローガン「ご縁を慶び、お念仏とともに」やロゴマークが決まり、ワッペンも作成されました。ワッペンは5色あり、各寺院に配布されるほか、福岡教区教務所でも配布しております。ワッペンをご希望の方がいましたら事務所までお尋ねください。(電話:092-771-9081)

本山本願寺での慶讃法要期日

2023(令和5)年

第1期	3月29日(水)～4月3日(月)
第2期	4月10日(月)～4月15日(土)
第3期	4月24日(月)～4月29日(土)
第4期	5月6日(土)～5月11日(木)
第5期	5月16日(火)～5月21日(日)



本願寺派社会福祉推進協議会福岡支部について

副支部長 七里 称羽(御笠組 正栄寺)

社会福祉推進協議会(社推協)福岡支部では主に募金活動や研修会の開催等の活動を行っています。募金は天神街頭に行き、東



日本大震災や直近の被災地へお送りしています。募金は天神街頭に行き、東

「ビハーラ福岡」「ピハラーライン・福岡」「本願寺点字ライブラリー」の三つの所属団体とも連携して、テーマを定めて行っています。

他にも各組の社会福祉活動や先に挙げた所属団体への助成金の交付、弁護士による法律相談電話の設置、組の街頭募金活動に際して募金箱やジャンパー、幟などの備品の貸し出しも行っています。是非ご活用いただきたいと思います。

(詳細は教務所にお尋ねください)

一方、この三月をもって東日本大震災復興支援体制を縮小

西本願寺 法律相談

相談用TEL

(092)716-1034

(毎週月曜～金曜、祝日は除く)
(AM 8:30～PM 18:00)

こころの電話

ピハラーライン・福岡

☎092-711-1432

(毎週月曜・金曜、祝日は除く)
(PM 13:00～PM 16:30)

いたします。教区の皆様から寄せられました支援金・義援金をお送りしたり、被災地域の子どもたちの長期休暇のホームステイを受け入れる「安穩交流プロジェクト」や筑紫女学園の現地でボランティア活動に助成金を交付したりと、これまで十年にわたり活動しました。復興が進み地域が自立していくなか、この十年という一つの大きな節目に際し、縮小することになりました。これまでご協力いただいた皆様に厚くお礼申しあげます。今日、社会にはコロナ禍、子どもの貧困、自然災害等の悩みや苦しみがあふれています。社推協福岡支部ではこれらの課題に対して支援、学習してまいります。どうぞ活動へのご理解、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

一言法話

私は僧侶になる前、六年間ほど社員をしていました。営業職です。ある日の夕方、なかなか契約が取れず、ひどく落ち込みながら訪問先の住宅街を歩いていると突然の大雨が。運悪く傘を忘れ、ズブ濡れでうつむき歩いていると、「おじさん」と聞いたことのない声。振り向くと、傘を差しランドセルを背負った小さな女の子がいました。そして「ハイ、あげる」とグイッと自分の傘を私に差し出しました。「えっ…いや、いいよ。お嬢ちゃんが雨で濡れちゃうやろ」とやんわり断りましたが、「いいの。私の家、すぐそこだから。ハイ、あげる」と私に傘を押しやる

「小さな慈悲」

福岡組 妙泉寺 木村 誉

る話し方で人に接すること」という意味で、阿弥陀様がまた菩薩の位であられたときに積まれた菩薩行の一つと言われています。宗派を問わず尊ばれるこの言葉ですが、実はまだ続きがあるのです。それは「先意承問(せんいじょうもん)」。意味は「相手の気持ちを先に察して、その望みを受け取り、自分自身に何ができるかを問い、自ら進んで手を差し伸べること」です。この言葉を初めて知ったとき、私はあの女の子の傘を思い出しました。見知らぬ他人が雨に打たれ、うつむき歩くのを目にし、それに対し自分は何ができるのだろうと考え、できる範囲で手を差し伸べてくれた。素直な幼心がゆえに取れた行動

かもいれませんが、その善意は今もなお、私の心にほのかな灯火をともし続けています。実際に行動に移すということは中々勇気のいることですが、その勇気を、私は「放つてはおけない」と立ち上がられた阿弥陀様の「南無阿弥陀仏」のお念仏よりいただいで参りたいと思います。

浄土真宗の根本聖典である『仏説無量寿経』の一節に「和顔愛語(わげんあいご)」という一語があります。これは「和やかな笑顔と、思いやりのあ

福岡教区教務所の予定表

月	日	曜	時	内容
3月	2	火	14:00	実践運動第5連区合同会議(オンライン)
	4	木	13:00	スカウトクラブ役員会(オンライン)
	8	月	10:00	教堂委員会
			13:30	声明と雅楽の会
			13:30	常備会
	9	火	10:30	仏教婦人会連盟若婦人部 代表者会
			14:00	時局問題対策協議会 全体会
	10	水	10:30	仏教婦人会連盟 支部長会
			14:00	実践運動 門信徒教化部会
			15:00	実践運動 同朋運動部会
			15:00	九州組長会理事会(オンライン)
	11	木	14:00	実践運動 非戦・平和部会
	12	金	14:00	実践運動 常任委員会
	13	土	13:30	仏教壮年会連盟 理事会
14	日	13:30	親鸞聖人讃仰講座(～15日迄)	
16	火	13:30	全国門徒総代会 臨時総会(オンライン)	
17	水	13:00	門徒推進員連絡協議会 役員会	
		13:30	寺族婦人会連盟 ブロック長会議	
22	月	15:00	閉堂(堂内設備点検のため)	
23	火	15:00	子ども・若者ご縁づくり推進委員会 総務部会	
26	金	13:00	教区会	
4月	6	火	14:00	子ども・若者ご縁づくり推進委員会 全体会
	7	水	14:00	ビハーラ福岡 例会
	12	月	13:30	門徒代表者協議会 役員会
	13	火	14:00	護持口数調整委員会
	14	水	13:30	親鸞聖人讃仰講座(～15日迄)
	17	土	9:00	門徒推進員連絡協議会 総会
	20	火	14:00	ビハーラ・ライン・福岡 例会
			13:00	仏教婦人会総連盟 総会(オンライン)
22	木	14:00	実践運動 常任委員会	
		15:00	組長会	
5月	10	月	14:00	若い布教使の会 総会
	14	金	13:30	親鸞聖人讃仰講座(～15日迄)
	17	月	14:00	布教団 役員会
	19	水	未定	ビハーラ・ライン・福岡 総会
	24	月	14:00	実践運動 全体会
6月	7	月	14:00	福岡教区子ども・若者ご縁づくり連絡協議会
	14	月	13:30	親鸞聖人讃仰講座(～15日迄)
	18	金	未定	戦争犠牲者追悼法要(オンライン)
	28	月	15:00	組長会

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、予定は予告なしに変更する場合がございます。

各行事開催の最新の状況については、主催者へお問い合わせください。

ご来堂の折は必ずマスクをご持参・ご着用ください。

各種行事に際しましては体温測定も実施いたします。

編集後記

自粛生活が始まって1年余り。「アマビエ」などの疫病除けのまじないが流行しているそうである。最近そういう話を聞かされたに、学生の時宗教学の講義で先生が言われたこの言葉を思い出す。「苦しい時にまじないや占いに頼るような人こそ、阿弥陀様の目当てです。本物の宗教、つまり浄土真宗のみ教を必要とする人たちです。」

発行責任者

浄土真宗本願寺派 福岡教区教務所長 野村 宗雄

〒810-0055 福岡市中央区黒門3-2
電話:092(771)9081